

2021年度 第2回研究集会（地理教育研究グループ第6回研究集会）報告
「地理的思考を問う」高等学校地理の評価問題づくりの工夫

吉田 剛（宮城教育大）

2022年度より新設「地理総合」が始まり、コンピテンシーが重視される中で、とくに思考力・判断力・表現力の育成の一層の充実が求められた。そこで、本研究集会では、高等学校現場の実践報告を中心に、情報交換と意見交換を深め、評価問題づくりの発展に役立てるために企画した。開催は、2022年3月12日（土）14:00から16:15まで、オンラインミーティング形式で行われた。北海道から九州まで、全国から学部学生、大学院生、高校教員、小中教員、大学地理学・地理教育研究者、国立教育政策研究所などの教育機関、教育関係企業などの様々な所属を持つ41名の参加が得られた。事後アンケートの結果には、学校現場に即した議論もあって盛況であったとの意見があった。その詳細は、別稿で報告する予定である。なお本研究集会は、次のスケジュールで進んだ。

<基調報告>地理的思考の問い方：吉田 剛（宮城教育大）

<報告1>思考力・判断力・表現力を重視した定期考査の実践：最上龍之介（宮城県気仙沼高）

<報告2>「思考力・判断力・表現力」を問う評価問題の工夫：移川恵理（仙台市立仙台高）

<報告3>コンピテンシーベースの授業実践から評価問題づくりまでの取り組み事例と課題：木場 篤（ノートルダム清心中・高）

<意見交換>

<総合コメント>安部卓也（宮城県仙台向山高）